

C³プロジェクトでは、「東海村の環境と原子力安全について提言する会」を設置し、皆さんと一緒に、行政や事業者との議論の場や、必要なリスク情報づくりを進めることにしています。

昨年4月から、参加していただいている住民の皆さんと議論を重ね、2つのプログラムの実施を決定しました。皆さんのお考えや要望を実現してみませんか。参加はいつでも受け付けています！！

東海村の環境と原子力安全について提言する会への参加 申し込み方法

参加申し込みチラシの裏面にあるハガキに必要事項をご記入の上、お申し込みください。

2004年3月31日まで受け付けています。

参加申し込みチラシは、C³プロジェクト事務局のほか、合同庁舎1階ロビー、駅、役場、核燃料サイクル開発機構（アトムワールド、リコッティ）、日本原子力研究所（インフォメーションプラザ東海）、日本原子力発電所（テラパーク）内に置いてあります。

月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
	10～16時	閉	10～16時			
9	10	11	12	13	14	15
	10～16時	建国記念の日	16～19時 提言する会			
16	17	18	19	20	21	22
	10～16時	10～16時	10～16時			
23	24	25	26	27	28	29
	閉	閉	閉			

予定は変更になる可能性がありますのでご了承ください。

サイクル機構の安全対策について議論しました！

10月に実施した視察について、参加者の感想と要望をまとめたレポートを作成しました。このレポートの内容について、再度サイクル機構関係者と安全対策について議論しました。

しーきゅうぶ2003年12月第6号でご報告したとおり、「東海村の環境と原子力安全について提言する会」では、希望者9名により、核燃料サイクル開発機構東海事業所の視察を去る10月20日に行いました。参加者は、視察の感想やサイクル機構への要望事項をレポートにまとめ、昨年末サイクル機構側へお渡ししました。1月14日に行った「提言する会」第8回会合では、再処理センターの田中副センター長と小林環境保全部課長に出席いただき、視察参加者の意見や提案内容について議論しました。

サイクル機構では、視察中の議論や視察レポートの中で住民が指摘した点について、視察終了後、現場の状況を確認したとのことでした。住民の意見の中にはサイクル機構が視察以前から気付いていた事柄もあり、提案された改善案を検討しているそうです。特に、再処理工場では、これまで現場の判断で大丈夫と考えていた設備の使い方や労働安全対策を念入りに見直し、できるだけ住民提案を取り入れるようにする予定だということでした。ただし、建物の構造変更など、できない事柄もあること等の説明もありました。

提言する会メンバーは、サイクル機構が真摯に住民意見に対応しようとしている点の評価すると同時に、提案事項は大掛かりな工事をやらなくても保護カバーをつけたり、色を変えたり、工夫次第で対応できるなど、再度具体的な提案を行いました。また、これまでの安全対策のチェック体制について質問し、「自ら問題点を早期に解決する」組織を維持してほしいとの要望を伝えました。

サイクル機構側からは、1月14日の議論も踏まえ、さらに指摘事項への対応を検討し、近いうちに改善結果を報告したいとの申し出がありました。



核燃料サイクル開発機構 東海事業所の安全対策について

視察参加者による第1回視察の主な感想・意見・提案とそれらに対するサイクル機構側の返答、さらに意見交換の内容をご紹介します。

1. 視察の事前準備・受け入れ体制について

<視察参加者の感想>

おそらく世界でも始めて思われる一般住民による原子力施設の視察ということで、視察する側もどこまでみることができ、質問にはどれだけ答えてもらえるかなど期待と不安が入り混じった見学であった。受け入れ側のサイクル機構の方も、住民が何を言い出すのか、どこまで対応すべきか、懸念と議論があったと思われるが、大変丁寧な対応をしていただいた。

一般の見学とは異なる体制で、異なるルートの案内をしていただいたように思う。

各視察建物の入り口で、関係者が笑顔で出迎え、安全防具の着脱、放射能ボディ検査には大変親切に対応していただいた。各施設での説明者は全員に分かるよう大きな声で、分かりやすく且つ親切に説明された。説明の速さや移動速度も高齢者に合わせてゆったりしていた。昼休み時と視察終了後の事業所幹部との質疑応答では、質問に対して何ひとつ隠すことなく、事実を報告説明されたと感じた。

2. 施設の安全対策について

<視察参加者の主な意見>

サイクル機構の放射線監視および臨界検知に関する設備は、よく検討されていてほぼ完全と考えられた。もし、JCOが小規模であってもこのようなきちんとした設備を用い、厳重な監視の下に、定められた規則通りにウラン加工を実施していれば、あのような事故は発生しなかっただろうと感じた。

サイクル機構の**放射線安全対策は十分検討されている**ように思われた。また、全体としては、施設に対する様々な改善が図られ、安全性も向上していると思われる。しかしながら、**労働安全衛生や緊急時の対応にはさらなる検討を**していただきたい。

多くの事故やトラブルの原因が、小さなミスやウツカリであることを考慮し、「いつでも誰にとっても安全」な施設づくりを心がけていただきたい。そのためには、①整理・整頓の徹底、②緊急時に備えた設備と使い方（事故時の人間心理や人間行動を踏まえた対策を検討すること）、③作業に不慣れな人でも確実に操作できる工夫、を希望する。（意見交換では個別具体的に気づいた点を伝えた。）

<サイクル機構側>

よい評価をしていただいた。指摘いただいた労働安全衛生も重視しているが、整理整頓や蟻という点では、局部的に問題が残っているかもしれない。我々が普段気付きにくい点を指摘していただいた。

視察終了後、指摘いただいた点について現場をチェックした。提案事項については、可能なかぎり対応するよう検討をしている。例えば、安全には特に問題ないとして、空きスペースを臨時の物置として使っていたり、床に機器を直置きしていたが、これらはやめるようにした。床の段差もなくすようにした。受け入れた使用済み燃料の貯蔵プールの柵は視認性を高めるようにしたい。提案事項の中には誤解や実施困難なものもあるが、現在検討中のものも含めて、できるかぎり対応したいと考えている。

3. 安全管理基準および安全監査のしくみ

<視察参加者の意見>

再処理工場と放射性廃棄物処理施設の管理基準が異なっているように思われる。東海事業所として、よい方の基準に統一することを希望する。

<サイクル機構側>

安全管理についてのルールはあるが、物の置き方など細かいところまでは定めていない。機構内には施設ごとに安全主任者がおり、各職場にも担当者をおいている。安全主任者に指摘された事柄には必ず対応する体制になっている。

安全管理については、提案にもあったように「蟻」、人の問題が関わってくるため、マニュアルを細かく作ればよいというものではないと思う。職場ごとに仕事の内容が異なり、現場にある程度任せている。整理整頓の重要性は理解しているが、実際問題として職場ごとに差がでてしまう。

<提言する会メンバーからの意見>

整理整頓は小さなことのように思えるかもしれないが、物の置き方ひとつに、安全管理基準がしっかりしているか、守られているかが現れる。職場ごとの差をなくすように努力してほしい。人の問題も大きいと思うので、現場の人材育成や「安全重視」の考えの浸透については、今以上に本気で取り組む姿勢がほしい。担当者のモラルの問題だけにせず、組織として安全管理を向上させるしくみを検討してはどうか。少し雑然とした現場だったという点では、普段着の姿を見せていただいたと言えるだろうが、1つの道具の整理整頓にも気をつける気持ちがないとモラルは際限なく下がっていくものなので、最後の片付けを担当する人を定めるなど、モラルを保つしくみも必要ではないか。

4. その他

<視察参加者の意見>

今回の現場視察で、所員が一丸となって安全管理を実施していること、災害を未然に防ぐ努力をされていること、安全に関して幹部が率先垂範で活動していること、小さなことでも安全に関しては隠さない管理をしていることを強く感じた。残念ながら、これらの安全管理がほとんど住民に伝わっていない。より多くの住民に伝える努力をしてほしい。開かれた、安全な核燃料サイクル開発機構となることを期待したい。また、安全文化はもう十分対策した、大丈夫だと思った瞬間から劣化する。今後も引き続き改善の努力を継続されることを希望する。

住民は、放射線安全のみならず、再処理で生まれるプルトニウムや放射性廃棄物の行く末も心配している。再処理施設の運転中はIAEAの査察官が常駐して監視しているなど、もっと住民に伝えるべき。

なお、1月14日の議論の中で、昨年10月28日に発生した再処理工場でのトラブル（硝酸溶液濃度の上昇による警報発報と運転の手動停止）がなぜ発生したかについて、丁寧な説明をしていただきました。

提言する会 新メンバー紹介 (2004年1月13日現在)

高木 直行 舟石川



学生時代から馴染みのある東海村に越してきて丸3年が経ちました。広島で生まれ育った私は、東海村の方々同様、核エネルギーについて考えさせられる機会が度々ありました。原子力に限ったことでありませんが、これまではあまりに技術と社会、または物と心を結びつけた考え方が欠落していた様に思います。自戒の念を込めつつ、C³の活動を通じて、それらを融合した豊かで安心できる地域社会のあり方を模索したいと考えています。

床井 順子 村松



在村7年目を迎え、自分たちで考え決定する市民には、原子力への正しい理解は欠かせないと私は考えています。新しい情報を得られ、意識の高い会員みなさんと意見交換できることに魅力を感じ「提言する会」に入会しました。東海村に住み続け「安心、安全で住みやすい東海村」を作る一人として、できるだけ多くの方と手を取り合い、現実的な原子力危機管理（リスクマネジメント）の方法や考えを身につけ、広めていきたいと思っています。

武藤 信雄 群馬県桐生市



1932年生まれ
1951年 工作機械メーカーに入社
1966年迄全国各地に納入された機会の技術指導のため東奔西走。1966年末米国及びカナダへ出向
1967年 総合クラッチメーカーに入社。主に品質管理を担当。
1985年 自営熔接業を開始
1989年 電力関連企業用地（電設）交渉を担当
1999年退職。現在に至る。